

白穂使し山丸坂お取所ん後年今般世可い方  
之穂おりり積らば元自穂と交出まり七部  
以名流く業しそわわてて女立の像く丑翌利加  
船の元出の測量と交し之の書而和解為り得  
お達り事

八月十日

○ 書政三年九月伊勢守殿の渡

神田明神宗祀の結田山田曲輪内より出たる及ん  
お是近く延多終物なりし市中に之をわたり候は  
勝の御身事  
おと直寺社よりお達り方なるを言ひ候は  
下り達せり

八月

○ 田のり

神田明神神喜の候も神田格のりて大の言近相  
派往より通す事と候も神無地候と云ふは列人  
朝出格別右省お取所ん後年今般世可い方

ねお省り屬く十あるに五割てす少し事一  
右に通事は少くはるおさるるはるを定むるに  
向て少くはるに定むるに事一

○安政三年十二月の御覽を致し渡  
かえりし書付し案に因りて移書

仕出さるる大勢を全用しり奉白四出せし事  
將來仕出連不しり中より大なる形示省  
てまは連り

たつとをてまは連り

三十一

○安政三年十二月の御覽を致し渡

全用具に委り奉りて相縮り執りし事一  
又て全用利しい候様にお申す事一

公儀におありし全用具の用いし事格別御武家一  
統下候は形示減省し事一 候にりり共餘

しとの様全用具用いし候石お成り社佛

園に在り候御佛具に候屋凡様お様全用

候お用い新候お事候石お成り方お事候

候様候御佛具に候屋凡様お様全用

候お用い新候お事候石お成り方お事候

候様候御佛具に候屋凡様お様全用

候お用い新候お事候石お成り方お事候

候様候御佛具に候屋凡様お様全用

候お用い新候お事候石お成り方お事候

候様候御佛具に候屋凡様お様全用

候お用い新候お事候石お成り方お事候